

府中市立南白系台小学校は、第 3 次府中市学校教育プランおよび学校教育目標に重ねて教育活動を展開する。

教育基本法の教育の目的と学習指導要領の理念をふまえながら、校長の子供観を指導の方向性を共通理解し、学校一丸となって教育活動を創造する。

【子供観】

～可塑性に富んだ可能性を秘めている存在
子供は未完 だからこそ学校で学ぶ～

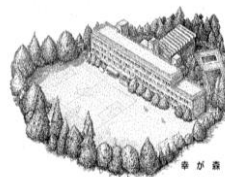
- ・減点法ではなく 積み上げを大切に! (できていないことよりもできた・わかったを大切に)
- ・認め、ほめて、はげまして伸ばす! (自己肯定感を醸成)
- ・失敗することは 学ぶチャンスととらえる! (思いやり・自己調整力を育成)

【明日も行きたい! 南白小】
すべての子供に「できた・わかった」の学ぶ喜びを

以下は、学校教育目標の実現に向けて私が目指す学校像である。

1 【目指す学校】

- 「教師も子供もみんなが明日も行きたいと思える学校」
 - ・子供にとって「安心できる居心地の良い」安定した学級
 - ・教師にとって「心にゆとりと働き甲斐」のある学校
- 「教師が子供への深い愛情と実力をもっている学校」
 - ・子供に寄り添い愛校心をもち、子供の「できた・わかった」を共に喜び、やりがいを見出せる教師集団
 - ・チーム南白小で組織的に、子供に自信を付けさせられる教師集団
- 「地域から愛される学校」
 - ・地域とともにある校長の顔が見える学校
 - ・社会と結び付きのある学校 (ゲストティーチャーを招聘し学校 HP やお便りで取組を発信する)



2 中期的目標と方策 (学校教育目標と関連させて)

【明日も行きたい 南白小】 ～すべての子供にできた・わかった の学ぶ喜びを～

(1) 「進んで学ぶ子ども」の育成を図る

- ・問題解決能力の育成を通じた授業改善と確かな学力の定着
- ・個別的な学びと協同的な学びを取り入れた「分かる授業」の充実

(2) 「助け合う子ども」の育成を図る

- ・互いのよさを発揮する特別活動の充実を通して自己肯定感や自己有用感の醸成
- ・考える道德教育の推進を通して望ましい行動や道德的な価値への気付きの育成

(3) 「たくましい子ども」の育成を図る

- ・明るい挨拶と体力向上の推進で心身ともに健康で粘り強く自己調整する力を育成

3 今年度の取組目標 (●) と方策

(1) 教育活動の目標と方策

教育基本法の教育の目的や学習指導要領の理念をふまえながら、子供観を明確にし「府中市立学校の教育の充実を目指して」の具体的な取り組みを通して学校教育目標の実現を図る。

- 南白系台小学校教職員一同が子供たちに「できた・わかった」の充実感を感じられるように意図的・計画的に教育活動を展開し、子供を「認め・ほめて・はげまして」心身ともに健康な成長を促し、未来に向かって希望に満ち溢れた日々を送れるよう、精一杯努力する。

(2) 重点目標と方策

①「進んで学ぶ子ども」について～確かな学力の観点から～【知】

●府中市教育課程グランドデザインを受け持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力の育成を図りながら「進んで学ぶ子ども」を育成する。

「発見すること（意欲・好奇心・課題発見力等）」

「対話すること（コミュニケーション力・多様性等）」

「決定すること」（自己調整力・批判的思考力等）」

「表現すること（実行力・表現力・責任感等）」

ア 授業者には、週ごとの指導計画の中に反映させて、児童の実態を加味した授業のねらいを明確にし、グランドデザインの育てたい資質・能力を意識しながら PDCA のサイクルで授業改善を図る。（1学期中に全員）

イ 子供たちには、東京ベーシックドリルを実施し、間違ったところは繰り返し個別的に学ばせたり e-ライブラリも活用したりしながら前学年の内容を理解させる。

ウ 子供たちには、単元の終末には、振り返りをさせて何を身に付け、何を学んだのか明確にして学びの軌跡の意識化を図り、教師が認めほめて価値付けて自己肯定感を高める。

エ 校内研究では、予算を適切に執行し、研究授業を年3回開催する。算数科を中心に個別最適な学びと協同的な学びを取り入れて問題解決能力の育成を図る。

②「助け合う子ども」について～豊かな心の観点から～【徳】

●子供は学年やチームで子供の心に寄り添い育てるという意識を明確にもち教育活動を行い、豊かな心の育成、自主的・実践的な取組を推進し「助け合う子ども」を育成する。

ア 「たてわり班活動」を活用して高学年のリーダー性や自主性を発揮する場面を設定することにより自己有用感を養うとともに、異学年交流によるお互いを思いやり助け合う共生の心情を醸成する。

イ 1学期「あいさつ運動」2学期「ちょこっとボランティア」3学期「あったか言葉かけ運動」という本校の3本柱の取組を推進し、豊かな心の情操を養い、自己有用感や自己肯定感を高める。

ウ 学年で道德の交換授業を年間複数回実施し、学年の子供理解を深めて授業力向上を図りながら、道德的価値について考え議論する授業を通して気付かせるとともに「いじめ防止」の授業を全学級で年間3回以上実施し未然防止に努める。

エ 「未来へつなぐ府中2020レガシー」事業では、郷土府中に残るお囃子体験や車いすスポーツ競技の交流活動を通して障害者理解教育を推進する。

オ 専科を副担任に全学年に置いたり教科担任制を活用したりすることで複数の目で子供を把握して SOS をキャッチするとともに、不登校やいじめなどの不安なことへの対応を組織的に行い子供の心の安定を図る。

③「たくましい子ども」について～健やかな心と体の観点から～【体】

●「なりたい自分像」「やってみたい目標」をもたせてあきらめないで努力する粘り強さや、たくましさを育成する。

●心身ともに健康で「体力向上」を推進したり、生活習慣の改善を図る指導を実施したりしながら、健康の保持増進に取り組む

ア 府中市スポーツトップチームと連携した事業を活用して、子供たちに体を動かす楽しさやトップアスリートの努力に触れ、夢や憧れ希望をもたせたり、外部からゲストティーチャーを招いたりして職業理解・生き方を考えるキャリア教育を推進する。

イ 熱中症対策を講じながら体育科の学習の体づくり運動を充実させたり、「ふちゅうロープチャレンジ」や「持久走」を活用したりしながら運動の楽しさを実感させて運動の日常化を推進する。

ウ 保健主任・給食主任を中心に給食指導・食育・食物アレルギー事故防止対策等を組織的に全校で推進できるように早い時期に確立する。

- エ 健やかな心の育成の第一歩として、校長自ら校門に立って朝の挨拶をする。年間を通してあいさつに力を入れ、あいさつを交わす心地よさやそのよさを実感させる。

④ 府中市教育委員会の教育施策について

- 学びの機会を保障し学びを支え、よりよく生きる力を育成する。

- ア 多様な教育ニーズに対応するため、コーディネータを中心に校内委員会で協議し、サポートルームの活用やタブレットを使った学習支援など配慮を要する児童の個に応じた指導を重層的に行う。
- イ 毎週金曜日の夕会で子供の様子について共通理解を図り、必要に応じて臨時で「いじめ対策委員会」や「校内委員会」を開催し、管理職・生活指導主任を中心に関係諸機関（指導室・はばたき・バーチャル ラーニング プラットフォーム・けやき教室・みらい・警察・児相・SC・SSW）と連携し組織的に早期に対応する。
- ウ 特別な支援を要する児童に対し、個別の学校生活支援シート及び連携型個別指導に計画や目標を定め保護者と共有し、個別指導計画の目標達成のための指導を充実させる。
- エ 高学年の教科担任制のよさや成果を全員で共通理解し、その充実を推進していく。
- オ ライフ・ワーク・バランスを推進し、必要な会議・行事・教育課程を見直したり、学校経営支援員等の支援を生かしたりして働き方改革を推進する。

⑤ 地域・保護者との連携について

- 学校から発信し信頼関係を築き、よりよい教育活動の実現を目指す。

- ア スクール・コミュニティ協議会や第六地区青少対委員会で本校の教育活動を伝えて理解と協力の空気を醸成する。
- イ 総合的な学習の予算を執行し、地域の方をゲストティーチャーに招いて米作りについて学び、生命尊重や生育の苦労や収穫の喜びを実感させる
- ウ 教員が地域行事に参加して地域での子供たちの様子を知るとともに地域との連携を強くする。また、地域行事への参加を「若手教員研修」の「外部との連携」に位置付ける。
- エ 個人面談で子供の育ちや学びの様子を丁寧に伝えていく。
- オ 各種行事や学校評価で保護者アンケート実施し、外部の声に対して真摯に耳を傾け、迅速かつ丁寧に対応するとともに次年度への教育活動に生かしていく。

4 今年度の取組の具体的な 10 の数値目標

- (1) 算数「東京ベーシックドリル」を活用し「知識・技能」の定着ができるように前学年の内容を理解させる。(正答率 8 割の子供 80%以上)
- (2) 育てたい資質・能力を意識させて授業改善を図る。(全教員)
- (3) 国語〔言語事項〕 漢字など(期末に実施する言語のワーク)を活用して実施し 80 点以上 8 割を目指す。
- (4) 繰り返し個別的に学ばせたり e-ライブラリも活用したりしながら現学年の内容を理解させる。(勉強がわかると思える子供 80%以上)
- (5) 学びの軌跡の意識化を図り、自己肯定感を醸成する。(自分にはよいところがあると思える子供 80%以上)
- (6) 国語・算数が好きと回答する子供 70%以上
- (7) 進んで明るい挨拶をする子供 85%以上
- (8) 安全に学校生活を過ごしている子供 85%以上(登下校も含めて)
- (9) 学校生活が楽しいと答える子供 85%以上
- (10) この仕事にやりがいを感じている先生 90%以上